

令和5年度

教育委員会の点検・評価報告書
【令和4年度事業対象】

太田市教育委員会

目次

○	教育委員会の点検・評価制度の概要	・・・1頁
○	教育委員会の活動状況	・・・・・・・・・・2頁
1	教育行政の推進	・・・・・・・・・・9頁
2	義務教育の推進	・・・・・・・・・・12頁
3	高校教育の充実	・・・・・・・・・・26頁
4	生涯学習の推進	・・・・・・・・・・29頁
5	文化財の保護活用	・・・・・・・・・・38頁

○ 教育委員会の点検・評価制度の概要

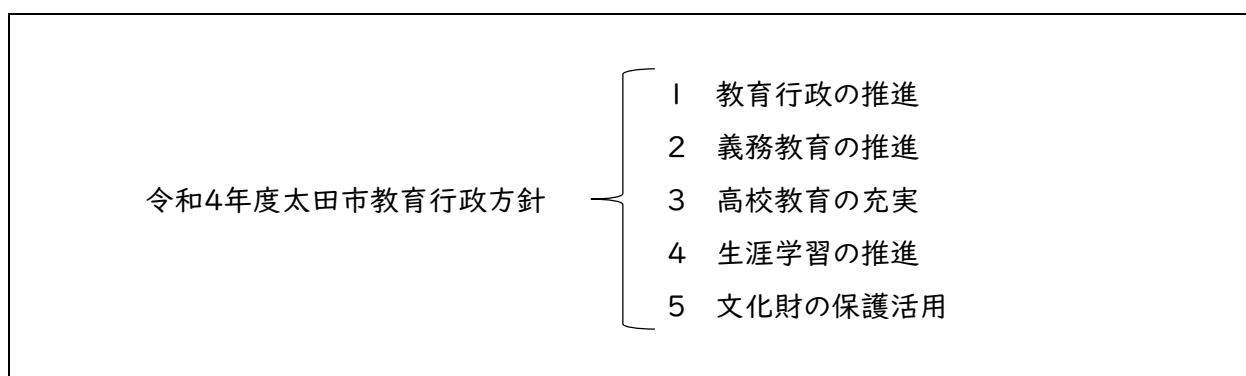
1 点検・評価の趣旨

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

そこで、太田市教育委員会でも、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために報告書をまとめ公表します。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「令和4年度太田市教育行政方針」に基づき実施した主な施策としました。



3 点検・評価の方法

太田市教育委員会が管理及び執行した事務の点検・評価にあたっては、「令和4年度太田市教育行政方針」に基づき、取組状況と成果・課題を明らかにして施策評価を行いました。

4 事務事業評価委員の知見の活用

地教行法に規定する「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、事務事業の管理及び執行状況についての客観性を確保するため、教育委員会自らが行った点検・評価の結果について、学識経験者の2人の方に事務事業評価委員として意見をいただきました。委員は次のとおりです。

氏名	経歴等
木村 孝	弁護士
大澤 範之	元中学校長

○ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会教育長及び委員（令和5年3月31日現在）

職名	氏名
教育長	恩田 由之
教育長職務代理者	池田 光男
委員	佐藤 真太郎
委員	野村 路子
委員	倉嶋 慶秀

2 令和4年度の主な取組状況と課題

(1) 教育委員会会議の開催及び委員会活動（教育総務課）

【 目的 】

地教行法により、教育委員会を毎月1回開催し、近々の教育行政の課題や問題について議論を行う。また、本市の教育行政の充実のため、各種行事に積極的に参加し教育現場や事業実態の把握に努め、共通認識と専門分野の識見をもって協議をする。

【 成果 】

○定例会の開催（令和4年4月～令和5年3月）

定例会を毎月開催し、活発な議論が行われた。得られた意見は校長会等を通じて学校現場に周知するなど、課題解決に向けた取組を行った。また、会議終了後に、事務連絡会及び意見交換会を実施することで、委員と事務局とのより綿密な情報共有を図ることができた。

会議		数
定例会	会議数	12
	議案数	48
	報告数	40
臨時会	会議数	2
	議案数	3
	報告数	0

議案内容	数
教育委員会規則の制定又は改廃	22
各機関委員会の委員の委嘱や任命	14
教育委員会所属の人事案件	5
財産の取得・廃止	2
文化財の指定又は解除	0
奨学生の決定	3
その他	5
計	51

○教育委員会会議の実績

年月日	区分	議案
令和4年 4月14日	定例会	議案第24号 太田市青少年センター指導員の任命について 議案第25号 太田市教育支援委員の委嘱について
5月18日	定例会	議案第26号 太田市学校給食運営委員会委員の委嘱について 議案第27号 太田市立学校評議員の委嘱について 議案第28号 太田市立太田高等学校管理に関する規則の一部改正について(秘密会) 議案第29号 太田市立幼稚園評議員の委嘱について 議案第30号 太田市青少年センター補導員の委嘱について 議案第31号 太田市総合体育館条例の制定について
6月6日	定例会	議案第32号 臨時代理の承認について(太田市総合体育館条例の制定の変更について) 議案第33号 太田市社会教育委員の委嘱について 議案第34号 太田市人権教育推進協議会委員の委嘱について 議案第35号 太田市青少年センター運営協議会委員の委嘱について 議案第36号 太田市青少年センター指導員の任命について 議案第37号 太田市いじめ問題専門委員の委嘱について
7月6日	定例会	議案第38号 太田市生涯学習センター条例施行規則の一部改正について
8月2日	定例会	議案第39号 令和3年度事業対象太田市教育委員会の点検・評価報告書について 議案第40号 令和5年度使用太田市立小・中・義務教育・高等学校教科用図書採択について(秘密会) 議案第41号 太田市体育施設条例の一部改正について 議案第42号 太田市体育施設条例施行規則の一部改正について 議案第43号 太田市立図書館協議会補欠委員の任命について 議案第44号 太田市社会教育総合センター空調設備改修工事請負契約締結について
8月10日	臨時会	議案第45号 太田市立学校給食センター設置条例の一部改正について
9月7日	定例会	議案第46号 旧太田市立葦川西小学校に関する教育財産の廃止について 議案第47号 令和4年7月募集採用 太田市奨学生の決定について(秘密会) 議案第48号 太田市学校給食費納入金徴収規則の一部改正について 議案第49号 太田市子育て支援対策学校給食費助成金交付規則の一部改正について 議案第50号 太田市体育施設条例施行規則の一部改正について
10月5日	定例会	議案第51号 令和4年度末教職員の人事異動方針について(秘密会)
11月2日	定例会	議案第52号 指定管理者の指定について(太田市総合体育館) 議案第53号 財産の取得について
12月7日	定例会	議案第54号 太田市子育て支援対策学校給食費助成金交付規則の一部改正について
令和5年 1月11日	定例会	報告事項のみ
2月2日	定例会	議案第1号 太田市学校給食費納入金徴収規則の一部改正について 議案第2号 太田市子育て支援対策学校給食費助成金交付規則の一部改正について 議案第3号 太田市立幼稚園給食費徴収規則の一部改正について 議案第4号 太田市総合体育館条例施行規則の制定について 議案第5号 太田市体育施設条例の一部改正について

年月日	区分	議案
2月2日	定例会	議案第6号 太田市体育施設条例施行規則の一部改正について
3月16日	定例会	議案第7号 令和5年度太田市教育行政方針について 議案第8号 太田市教育委員会職員の職名及び職務に関する規則の一部改正について 議案第9号 太田市教育委員会の所管に係る個人情報の保護に関する法律施行条例施行規則の新規制定について 議案第10号 太田市奨学生の決定について(秘密会) 議案第11号 笹川清奨学生の決定について(秘密会) 議案第12号 太田市教育委員会事務局の人事等について(秘密会) 議案第13号 令和5年度太田市青少年センター指導員及び相談員の任命について 議案第14号 校長、副校長及び教頭の異動内申について(秘密会) 議案第15号 太田市就学援助費支給規則の一部改正について 議案第16号 太田市総合体育館条例の施行期日を定める規則の制定について 議案第17号 太田市美術館・図書館美術作品等収蔵委員会委員の任命について 議案第18号 会計年度任用職員に関する処分について(秘密会)
3月24日	臨時会	議案第19号 太田市教育委員会事務専決規程の一部改正について 議案第20号 会計年度任用職員に関する処分について(秘密会)

○会議以外の委員活動状況

様々な教育諸課題に対処するため、県内外の各種教育委員会行事を通じ、研修会等の参加及び情報交換に努め、教育委員会の組織・運営に万全を図った。

なお、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初予定していた様々な行事が中止となり、また例年行っている先進地への教育委員行政視察も中止となった。

事業名	期日・場所	内容
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会、研修会	令和4年5月27日 市民いちごホール (真岡市民会館)	総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面議決となった。また、研修会は資料配布により実施された。
第44回少年の主張太田市大会	令和4年6月25日 社会教育総合センター	中学生が日頃の生活を通して感じていることや考えていることを発表する「少年の主張」大会に参加した。
群馬県市町村教育委員会連絡協議会理事会、定期代議員会、新任研修会、全体研修会	令和4年11月15日 尾島生涯学習センター	理事会及び定期代議員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面議決となった。また、新任研修会は市町村教育委員会研究協議会(第1ブロック)に代えることとし、全体研修会は中止となった。 (太田市が事務局)
太田市成人式 ～二十歳を祝う会～	令和5年1月8日 太田市民会館	二十歳の青年の新しい門出を祝福し、成人がお互いにその喜びを分かち合い、社会からの信頼と期待に応えられる社会人となるための自覚と認識を促進するために実施された、太田市成人式に出席した。

事業名	期日・場所	内容
市長・教育委員・校長情報交換会	令和5年1月23日 太田市尾島庁舎 402会議室	市長及び校長との情報交換会に出席した。「学校給食費の無料化及び自校方式について」、「学校体育館の空調設備設置について」、「部活動の地域移行について」等を議題とし、太田市の教育に関する情報の共有を図り、意見交換を行った。
太田市教育委員行政視察研修		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 中止となった。

※このほか、教育委員会事業を始めとする各種公式行事や小・中学校の卒業式に参加し、教育行政と現場との連携を深めた。

【点検・評価／今後の課題等】

- 定例教育委員会や委員会後の意見交換会において、教育上の諸問題の解決に向けて委員と教育委員会事務局との間で積極的かつ活発な議論や協議を行い、教育行政と学校現場の更なる充実を目指し、共通認識を図った。
- 教育委員会会議の開催の案内や教育委員会で行われた議論（会議録）を市ホームページ上に公開し、積極的な情報公開に努めているところであるが、引き続き開かれた教育行政の推進を目指していきたい。
- 県内又は関東圏内の近隣教育委員会との連絡を密にし、研修会等を通じて全国共通の教育施策や課題を共有し、教育委員会の組織・運営の更なる改善に努めたい。

【事務事業評価委員の意見】

- ◇様々な教育諸課題に対処するために定例の会議のみならず研修会、各種行事等積極的に参加し活動していることは高く評価できる。太田市教育行政の発展のため今後も引き続き、充実した教育委員会活動が展開できることを期待したい。
- ◇教育を取り巻く環境は大変厳しさを増しており、時代の変化に対応した教育が求められている。引き続きリーダーシップを発揮する中で、課題解決を期待したい。
- ◇教育委員会会議の開催案内や、会議録等ホームページ上に公開し、積極的に開かれた教育行政を推進していることは高く評価できる。各学校のホームページの更新等適切に実施する中で積極的に情報を公開し、市民の理解を深められたい。

3 教育委員会事務局の組織

(令和5年3月31日現在、会計年度任用職員は除く)

(1) 教育部

区分	内 訳
教育部	部長1人、副部長2人

(2) 教育総務課

係・担当	分 掌 事 務	職員数
課長	課全般	1人
総務係	教育委員会委員及び教育長の秘書、教育委員会の会議、総合教育会議、公印の管理、教育行政に関する相談、職員の任免、分限、懲罰、服務等の人事及び給与、職員の研修及び福利厚生、教育委員会規則の制定及び改廃、学校の設置及び廃止、奨学金、後援及び共催申請、尾島庁舎の維持管理、市立太田高校との連絡調整、幼稚園事務の委任等、他の課に属さないこと	7人
計		8人

(3) 学校施設管理課

係・担当	分 掌 事 務	職員数
課長	課全般	1人
主幹	学校給食業務全般	1人
財務係	学校予算の執行及び決算、学校備品の調達、学校施設の管理	4人
施設整備係	学校施設の総合計画の策定、学校施設の改修工事及び施設・設備の修繕等、その他学校施設の管理	6人
学校給食係	給食予算、給食室建設及び設備の更新、給食調理員の人事及び学校給食関係職員の研修及び連絡調整、学校給食運営委員会、食に関する指導、その他給食の管理	6人
新田学校給食センター	新田学校給食センターの運営、給食調理、栄養指導、その他給食の管理 等	2人
計		20人

(4) 文化財課

係・担当	分 掌 事 務	職員数
課長	課全般	1人
文化財保護係	文化財保護に係る企画調整及び計画策定、文化財の指定及び解除、文化財の保存管理及び教育普及、文化財の調査研究、重要文化財等に関する現状変更等の許可、収集資料等の管理及び活用、文化財関係図書等の販売、旧中島家住宅の保存事業、中島知久平邸地域交流センターの管理運営、文化財保護審議会	4人
埋蔵文化財係	埋蔵文化財の保護及び調整（発掘調査、出土資料の整理・管理・活用、発掘調査報告書作成等）、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事に係わる届出の受理及び指示	6人
史跡整備係	史跡天神山古墳・女体山古墳・上野国新田郡家跡・新田荘遺跡・金山城跡の公有地化、調査・整備及び管理・活用、史跡に関する軽微な現状変更等の許可、史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センターの管理運営	7人 (再任用職員 3人含む)
資料館係	新田荘歴史資料館・縁切寺満徳寺資料館・高山彦九郎記念館・藪塚本町歴史民俗資料館・大隅俊平美術館の管理運営、茶会所大光庵の管理、資料館及び記念館等運営委員会	6人 (再任用職員 4人含む)
計		24人

(5) 生涯学習課

係・担当	分 掌 事 務	職員数
課長	課全般	1人
管理係	施設管理・青少年関連団体補助事業・社会教育事業・金山の森キャンプ場管理・宝南センター管理	4人
社会教育係	社会教育事業・人権教育事業・文化振興事業・教育集会所運営	6人 (再任用職員 3人含む)
青少年係	青少年交流事業・青少年育成事業・青少年団体育成事業・サイエンスアカデミー事業・成人式	4人
計		15人

(6) 学校教育課

係・担当	分 掌 事 務	職員数
課長	課全般	1人
管理係	児童生徒の就学並びに異動、学齢簿の編纂、指定学校変更及び区域外就学、就学奨励及び就学援助、スクールバス、学校教育センターの管理運営、市費任用職員の人事給与、教科用図書給与、各種検定料助成	5人
企画係	学校適正規模及び適正配置、小中一貫教育	3人
教職員係	県費負担教職員の任免、分限及び懲戒、サービスの監督、教員免許状、産休、病休その他県費負担臨時教職員の任用、おたん教育支援隊の活用	3人
指導係	学校の経営並びに教員の指導及び助言、学校の組織編制・教育課程編成の助言、教職員の研修、生徒指導、人権教育、情報教育、進路指導、特別支援教育、国際理解教育、公立学校における帰国・外国人児童生徒に対する支援事業	8人
保健体育係	学校体育、小体研・中体連、東毛林間学校、学校保健（児童生徒各種健康診断、教職員健康診断、学校環境衛生検査、学校保健会）、労働安全衛生管理、学校安全（学校事故、交通事故、不審者対応、自然災害）	3人
教育研究所	教育研究、教育相談、不登校対策	0人
計		23人

(7) 市立太田高校

係・担当	分 掌 事 務	職員数
事務長	課全般	1人
管理係	公印の保管、授業料等の管理、学校の整備計画、教職員の人事・給与及び福利厚生、調査統計、生徒の就学、入学者選抜事務、学校の庶務、施設・設備の維持管理、団体事務、部活動の支援、図書館運営	6人
計		7人

I 教育行政の推進

(1) 教育行政方針の作成		(教育総務課)
目的	「太田市教育大綱」に基づき、教育行政として目指すべき方向性や遂行すべき業務目的を体系的かつ包括的に表すもの。	
成果	○取り組むべき施策や目標を具体的に示すとともに、その成果を検証するための指標を設定し、市民等に公表することができた。	
点検・評価 今後の課題等	○年度当初に速やかに市ホームページ上に公開し、市内各校への配布を行うことで、教育行政方針の内容を周知するとともに、諸施策の展開を図ることができた。	

(2) 教育行政の点検・評価の実施		(教育総務課)
目的	地教行法に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うもの。	
成果	○点検・評価の結果に関する報告書を議会に提出するとともに一般に公開することにより、市民への説明責任を果たすことができた。	
点検・評価 今後の課題等	○教育委員会では様々な教育課題に取り組んでいるが、その点検・評価の結果について、事務事業評価委員の意見をいただくことにより客観性を確保できた。	

(3) 奨学金制度の充実		(教育総務課)															
目的	本市の学生で進学意欲と能力があるにもかかわらず、経済的理由により高校、大学等における修学が困難な者に対し、奨学金を無利子で貸与し、有用な人材を育成する。																
成果	<p>○有用な人材の育成及び制度周知の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報おたや太田市ホームページ、太田市Twitterでの募集案内ほか、市内各学校や行政センター等の案内配布により制度周知を行った。 ・家計が急変してしまった学生等に柔軟に対応できるよう、太田市奨学金の申請機会を2回に増やし、利便性を向上させることができた。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>貸与区分</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規貸与者(1月募集)</td> <td>16人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>新規貸与者(7月募集)</td> <td>4人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>継続貸与者</td> <td>36人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>56人 (20,706,000円)</td> <td>69人 (24,900,000円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ ()内は貸与額</p>		貸与区分	令和3年度	令和4年度	新規貸与者(1月募集)	16人	23人	新規貸与者(7月募集)	4人	6人	継続貸与者	36人	40人	合計	56人 (20,706,000円)	69人 (24,900,000円)
貸与区分	令和3年度	令和4年度															
新規貸与者(1月募集)	16人	23人															
新規貸与者(7月募集)	4人	6人															
継続貸与者	36人	40人															
合計	56人 (20,706,000円)	69人 (24,900,000円)															

<p>成果</p>	<p>○返還免除制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、人口が大きく減少し、地域社会の担い手が不足していくことが予測される社会状況を踏まえ、返還金を免除することにより若い世代の市内定住化を促進し、地域の活性化を図ることを目的とする太田市奨学金の返還免除制度の運用を開始した。 <p>(令和4年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全返還者 98人 ・返還免除申請者 23人(うち承認 23人) <p>○収納率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者及びその保護者に対する奨学金制度の説明会を開催し、奨学金貸与の趣旨や制度運用についての認識を高めてもらうとともに、返還についての自覚を促した。 ・滞納者に対し、電話や文書通知による督促を行い、過年度滞納者数の減少と、収納率の向上に努めることができた。 <p>[滞納者数] 令和4年度当初 18人 令和4年度末 16人</p> <table border="1" data-bbox="443 869 1417 1122"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">太田市奨学金の 収納率</td> <td>現年度 99.56%</td> <td>現年度 100%</td> <td>現年度 97.01%</td> </tr> <tr> <td>過年度 34.31%</td> <td>過年度 19.00%</td> <td>過年度 29.66%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	太田市奨学金の 収納率	現年度 99.56%	現年度 100%	現年度 97.01%	過年度 34.31%	過年度 19.00%	過年度 29.66%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)									
太田市奨学金の 収納率	現年度 99.56%	現年度 100%	現年度 97.01%									
	過年度 34.31%	過年度 19.00%	過年度 29.66%									
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○令和3年度より、太田市奨学金の申請機会を2回に増やしたところであるが、2回目の募集における申請者が少なかったことから、更なる制度の周知を行いたい。</p> <p>○太田市奨学金返還金において、滞納対策は依然として課題である。太田市債権管理条例に基づき現年度分の収納対策を行うとともに、引き続き過年度滞納者への対策を強化していく。</p>											

<p>(4) 就学援助制度の充実 (学校教育課)</p>	
<p>目的</p>	<p>経済的な理由により就学困難な児童生徒等の保護者に対し必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な遂行に資する。</p>
<p>成果</p>	<p>○義務教育の円滑な実施と保護者の負担軽減が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童生徒数就学援助費 小学生 1,186人(70,824,767円) 中学生 621人(53,869,546円)
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○毎年10月頃に、全児童生徒並びに新小学1年生になる家庭に、就学援助のチラシを配布している。今後も継続し、制度の周知を徹底する。</p> <p>○物価高騰の影響を受けている受給者も多いと思われるが、これからも適切な援助を行っていきたい。</p>

(5) 子育て支援制度の充実		(学校施設管理課)
目的	子育てにおける保護者の経済的負担軽減を図る。	
成果	<p>○第2子及び第3子以降学校給食費等助成事業に加え、令和5年1月より市立外中学生第1子学校給食費の全額助成を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1子学校給食費全額助成 4,648,000円 (中学生332人) ・第2子学校給食費全額助成 261,055,330円 (小学生4,199人、中学生2,267人、計6,466人) ・第3子以降学校給食費助成 78,561,410円 (小学生1,457人、中学生390人、計1,847人) <p>※学校給食費無料化 令和4年10月より市内中学校生徒の給食費無料化を実施した。 中学生6,104人 無料化金額 181,863,630円</p>	
点検・評価 今後の課題等	○子育て支援制度について、学校を通じチラシの配布、広報おたやホームページにより本制度の周知を図る。学校給食費助成事業については、申請漏れがないように、年度の途中において再度の周知徹底を図り、子育て世代への継続的な経済的負担軽減に努める。	

<p>【事務事業評価委員の意見】</p> <p>◇「太田市教育大綱」に基づいた教育行政方針を作成し、その成果を検証するための点検評価など適切に実施されており高く評価できる。諸施策の取組が適切であったかどうか検証することは大切なことであり、今後も引き続き客観性が確保される取組を期待したい。</p> <p>◇奨学金制度の充実について、経済的理由により就学困難な学生にとっては大変有意義な制度であり、有用な人材育成の観点から大いに評価できる。特に、制度の周知も工夫されており、また返還免除制度の運用も開始されるなど、取組の改善が図られており大いに評価したい。</p> <p>◇就学援助制度、子育て支援制度の充実について、就学援助費の助成や給食費の助成等義務教育の円滑な遂行、保護者の経済的負担の軽減に大いに寄与している。太田市独自の施策もあり、今後も引き続き実施されたい。</p>

2 義務教育の推進

(1) 学校経営の充実		(学校教育課)									
目的	きめ細かな指導による知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」の育成。意欲と高い専門性をもち効果的な質の高い教育活動を行うための教職員の職能成長。安全・安心で信頼される学校づくりに努めながら、学校経営の充実を図る。										
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領で求める資質・能力の育成に向けた教育課程の適切な編成と確実な実施や学校評価等に基づく改善に取り組むことができた。 ○校内研修の充実、人事評価の活用等により教職員の職能成長を図ることができた。 ○家庭・地域・関係機関と連携し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら教育活動の充実を図ることで、信頼される学校づくりに取り組むことができた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標の概要</th> <th style="width: 12.5%;">現状値 (R3年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標値 (R4年度)</th> <th style="width: 12.5%;">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校評価の「組織運営」の自己評価(年度末)の結果がAとなる学校の割合(小・中:学校評価)</td> <td>93.5%</td> <td>100%</td> <td>95.8%</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	学校評価の「組織運営」の自己評価(年度末)の結果がAとなる学校の割合(小・中:学校評価)	93.5%	100%	95.8%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
学校評価の「組織運営」の自己評価(年度末)の結果がAとなる学校の割合(小・中:学校評価)	93.5%	100%	95.8%								
点検・評価 今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動の質をより向上させていくために、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。 ○研修会を充実させ、学習指導力や生徒指導力、学級経営力の向上を図る。 ○報告・連絡・相談・確認体制を徹底し、組織的ないじめ対策や不登校対応により、学校課題の早期解決に努める。 ○ICTを効果的に活用しながら業務改善や校務の効率化を図り、働き方改革を促進する。 										

(2) 確かな学力の確実な定着に向けた指導の充実		(学校教育課)	
目的	本市の教育行政方針を踏まえて、学校訪問を中心に各学校における学力向上に関する諸問題について指導・助言することで、授業の質の向上が図れるよう努め、児童生徒に確かな学力が確実に身に付くようにする。また、きめ細かな支援を充実することで、一人ひとりがわかる喜びを味わい、学ぶ意欲や学力が向上するよう努める。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の資質向上 1学期及び2学期の計画訪問延べ84日、3学期の要請訪問延べ39日実施の結果、各学校からの満足度評価(5段階)の平均値が4.76(前年度:4.51)であった。また、自由記述では「新学習指導要領実施に伴う授業改善への取組に対する方向性について、共通理解を図ることができた」などの感想が多数寄せられた。 		

<p>成果</p>	<p>○個に応じたきめ細かな指導 おたん教育支援隊、バイリンガル教員、日本語指導員、介助員、教育相談員などの市費教職員を状況に応じて配置したことで、個に応じたきめ細かな指導体制が確立でき、教職員の負担軽減にもつながった。また、負担軽減により、教職員が教材研究等を行う時間が充実したとともに、指導力や資質向上に結びついた。</p> <table border="1" data-bbox="443 421 1414 878"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差 (小・中:全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6 -1.9</td> <td>小6 +1.0</td> <td>小6 -0.8</td> </tr> <tr> <td>中3 -0.4</td> <td>中3 +1.0</td> <td>中3 -1.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">家庭等での学習時間 小6 平日1時間以上の割合 中3 平日2時間以上の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6 66.2%</td> <td>小6 75.0%</td> <td>小6 62.9%</td> </tr> <tr> <td>中3 43.3%</td> <td>中3 50.0%</td> <td>中3 67.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国の平均正答率は小数第一位、市の平均正答率は整数値まで公表のため、値は概数 ※表記について 義務教育学校1年～6年:小1～小6 7年～9年:中1～中3以降同様</p>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 -1.9	小6 +1.0	小6 -0.8	中3 -0.4	中3 +1.0	中3 -1.4	家庭等での学習時間 小6 平日1時間以上の割合 中3 平日2時間以上の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 66.2%	小6 75.0%	小6 62.9%	中3 43.3%	中3 50.0%	中3 67.4%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)																
「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 -1.9	小6 +1.0	小6 -0.8																
	中3 -0.4	中3 +1.0	中3 -1.4																
家庭等での学習時間 小6 平日1時間以上の割合 中3 平日2時間以上の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 66.2%	小6 75.0%	小6 62.9%																
	中3 43.3%	中3 50.0%	中3 67.4%																
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○学校現場における新学習指導要領の理解と、ICTを活用した教育活動の充実、それを実践する教職員の資質向上に向けた校内研修の充実を図る。</p> <p>○学校訪問において、適切な指導・助言を行えるよう、指導主事の研修を充実し、学校現場に寄り添った指導ができるよう努める。更に、新学習指導要領の趣旨の周知に努め、指導と評価の一体化等、学力向上につながる取組を指導・支援する。</p> <p>○学校現場では、多様な児童生徒・保護者等のニーズに応えるために、教職員の時間的・精神的な負担が増大している。</p> <p>○働き方の価値観の転換を図るため、教職員が自己の勤務時間を把握し意識改革につながる取組を推進する。また、多忙化解消に向け、業務改善を図る。</p> <p>○「個に応じたきめ細かな指導」を更に推進するため、学校、児童生徒、保護者のニーズに応じた市費職員の最適配置を検討する。</p>																		

<p>(3) 人権・道徳教育の充実 (学校教育課)</p>	
<p>目的</p>	<p>本市の教育行政方針を踏まえて、児童生徒が人権に関する基本的な知識を学び、日常生活で用いる技術を身に付けるとともに、人権感覚を育成する。また、「考え、議論する」道徳の授業、家庭や地域との連携を通して道徳教育の充実を図り、いじめを許さない学校・学級づくりに努める。</p>

<p>成果</p>	<p>○組織・計画 市内全小・中・義務教育学校において、学校運営組織に人権教育主任を位置づけて全体計画の見直し・改善を実施している。重要課題については、年間指導計画の多くの項目が位置づけられている。</p> <p>○教職員の資質向上 市内全小・中・義務教育学校において、人権に関する諸条約、法令や人権教育に視点を当てた授業研究会等の研修を実施している。</p> <p>○保護者の啓発、地域及び関係機関等との連携 市内全小・中・義務教育学校において、学校・学年通信やwebサイトによる情報提供を行っている。保護者や地域との連携や啓発のための取組が推進されている。</p> <table border="1" data-bbox="443 680 1414 1167"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6 95.4%</td> <td>小6 100%</td> <td>小6 94.7%</td> </tr> <tr> <td>中3 94.6%</td> <td>中3 100%</td> <td>中3 96.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人権教育年間指導計画の見直し、改善を実施している学校の割合 (小・中・高:人権教育推進状況調査)</td> <td>小 100%</td> <td rowspan="3">小・中・高 100%</td> <td>小 100%</td> </tr> <tr> <td>中 100%</td> <td>中 100%</td> </tr> <tr> <td>高 100%</td> <td>高 100%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 95.4%	小6 100%	小6 94.7%	中3 94.6%	中3 100%	中3 96.0%	人権教育年間指導計画の見直し、改善を実施している学校の割合 (小・中・高:人権教育推進状況調査)	小 100%	小・中・高 100%	小 100%	中 100%	中 100%	高 100%	高 100%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)																	
「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 95.4%	小6 100%	小6 94.7%																	
	中3 94.6%	中3 100%	中3 96.0%																	
人権教育年間指導計画の見直し、改善を実施している学校の割合 (小・中・高:人権教育推進状況調査)	小 100%	小・中・高 100%	小 100%																	
	中 100%		中 100%																	
	高 100%		高 100%																	
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○児童生徒の人権感覚の育成に有効な参加型体験学習の研修や人権教育に関わる外部講師を活用した研修を実施する。</p> <p>○「部落差別の解消の推進に関する法律」の周知徹底が必要である。</p> <p>○自傷行為や自殺を考えている児童生徒が増加していることから、命の大切さや人権をテーマにした道德等の授業を行うとともに、保護者等に公開・啓発していく必要がある。</p>																			

(4) 生徒指導の充実		(学校教育課)
<p>目的</p>	<p>児童生徒一人ひとりが自己肯定感をもち、自己実現を図っていけるよう支援を進め、問題行動やいじめ、不登校の未然防止に努める。</p>	
<p>成果</p>	<p>○問題行動については、暴力行為や喫煙の報告数が、減少傾向となった。</p> <p>○いじめについては、積極的な認知による全校体制での早期発見・早期対応に努めており、「いじめ一報制」を効果的に活用している学校が増加傾向となった。コロナ禍においても、いじめ防止ポスターの作成など全校で児童生徒による主体的ないじめ防止活動が行われた。</p>	

<p>成果</p>	<p>○不登校については、適応指導教室である太田第一ふれあい教室（宝南教室）、太田第二ふれあい教室（新野教室）に年間55名以上の児童生徒が通室し、通室していた中学3年生は通信制高校を含め進路を決めることができた。</p> <table border="1" data-bbox="443 315 1414 999"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6 97.0%</td> <td>小6 100%</td> <td>小6 97.2%</td> </tr> <tr> <td>中3 95.6%</td> <td>中3 100%</td> <td>中3 96.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">いじめを自分のことと考え、いじめ防止活動に主体的に取り組んだ児童生徒の割合 (小・中:いじめ問題取組状況調査)</td> <td>小 100%</td> <td>小 100%</td> <td>小 100%</td> </tr> <tr> <td>中 100%</td> <td>中 100%</td> <td>中 100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">年間欠席30日以上の不登校児童生徒の人数 (小・中:月例報告)</td> <td>小 122人</td> <td>小 100人以下</td> <td>小 146人</td> </tr> <tr> <td>中 220人</td> <td>中 200人以下</td> <td>中 306人</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 97.0%	小6 100%	小6 97.2%	中3 95.6%	中3 100%	中3 96.8%	いじめを自分のことと考え、いじめ防止活動に主体的に取り組んだ児童生徒の割合 (小・中:いじめ問題取組状況調査)	小 100%	小 100%	小 100%	中 100%	中 100%	中 100%	年間欠席30日以上の不登校児童生徒の人数 (小・中:月例報告)	小 122人	小 100人以下	小 146人	中 220人	中 200人以下	中 306人
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)																							
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた小・中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 97.0%	小6 100%	小6 97.2%																							
	中3 95.6%	中3 100%	中3 96.8%																							
いじめを自分のことと考え、いじめ防止活動に主体的に取り組んだ児童生徒の割合 (小・中:いじめ問題取組状況調査)	小 100%	小 100%	小 100%																							
	中 100%	中 100%	中 100%																							
年間欠席30日以上の不登校児童生徒の人数 (小・中:月例報告)	小 122人	小 100人以下	小 146人																							
	中 220人	中 200人以下	中 306人																							
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○不登校児童生徒（年間30日以上の不登校）の数は特に5月から6月に増加傾向が見られる。</p> <p>○スマートフォン等を利用したSNSを介したトラブルや問題行動の未然防止が必要である。</p> <p>○児童生徒が互いに認め合い、成就感をもてるよう、児童生徒の活躍の場を多く設定し、一人ひとりのよさを認めたり、努力を励ましたりする指導の徹底を図る。</p> <p>○ふれあい教室、おおたん通信教室と学校との連携を図り、不登校児童生徒のニーズに合わせて組織的に支援できるようにする。</p> <p>○児童生徒の小さな変化に気付き、児童生徒からのSOSを受け止めることができるよう、校内の支援体制を整え、研修機会を充実させる。</p> <p>○不登校対策体験活動を通して、達成感や自己肯定感をもたせる。</p> <p>○教育相談員を不登校児童生徒が多い中学校及び小学校に適切に配置し、別室登校（相談室登校）生徒の指導・支援の充実を図ることで登校を促し、教室への復帰ができるようにする。</p>																									

(5) 学校体育と学校保健の充実		(学校教育課)
<p>目的</p>	<p>○学習指導要領総則の3「学校の体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする」に基づき、教科体育・保健体育を中心とする様々な教育活動を通して、体力の向上及び健康の増進を図る。</p>	

目的	○学校や関係機関との協力体制のもと、児童生徒及び教職員の健康の維持管理に努め、健康で快適な学校づくりを図る。															
成果	<p>○各校の実態に応じて「体力向上プラン」を見直し、学校教育全体を通じて体力向上に取り組むことができた。</p> <p>○県学校体育研究発表会での研究の成果を共有したことで、教師の授業改善に対する意識や指導力の向上に結びついた。</p> <p>○薬物乱用防止に関わる指導は、感染症に配慮しつつほとんどの学校で実施し、理解を深めることができた。</p> <p>○家庭での検温や健康観察の結果を記録する健康観察表など、感染拡大防止に必要な対応について指示し、それをもとに各学校が適切な対応を図ることで、感染拡大を防ぐことができた。</p> <p>○全教職員のストレスチェックを実施し、本市教職員の傾向と対策について校長会で知らせることにより、太田市教職員のメンタルヘルスや働き方に対する意識を高めることができた。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標の概要</th> <th style="width: 12.5%;">現状値 (R3年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標値 (R4年度)</th> <th style="width: 12.5%;">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">新体力テストの測定結果 (全国平均を上回る検査項目数/ 検査項目総数)</td> <td>小5男 2/8</td> <td>小5男 5/8</td> <td>小5男 2/8</td> </tr> <tr> <td>小5女 4/8</td> <td>小5女 5/8</td> <td>小5女 4/8</td> </tr> <tr> <td>薬物乱用防止教室を開催している学校の割合 (公立小中学校、市立太田高校)</td> <td>全校種 80.5%</td> <td>全校種 100%</td> <td>全校種 94.1%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	新体力テストの測定結果 (全国平均を上回る検査項目数/ 検査項目総数)	小5男 2/8	小5男 5/8	小5男 2/8	小5女 4/8	小5女 5/8	小5女 4/8	薬物乱用防止教室を開催している学校の割合 (公立小中学校、市立太田高校)	全校種 80.5%	全校種 100%	全校種 94.1%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)													
新体力テストの測定結果 (全国平均を上回る検査項目数/ 検査項目総数)	小5男 2/8	小5男 5/8	小5男 2/8													
	小5女 4/8	小5女 5/8	小5女 4/8													
薬物乱用防止教室を開催している学校の割合 (公立小中学校、市立太田高校)	全校種 80.5%	全校種 100%	全校種 94.1%													
点検・評価 今後の課題等	<p>○「体力向上プラン」に基づく学校体育の実践に当たっては、体育主任を中心とした組織的な取組と中学校区内での情報共有と共通実践に努める。</p> <p>○保健指導については、健康診断の結果を受けた受診勧告を各家庭に配布するとともに、継続して家庭への啓発を進め、受診及び治癒率の向上につながるよう努める。</p> <p>○関係団体等との連携を積極的に行い、感染症対策を講じて行う学校保健の運営など、各校の実態に応じた保健指導の充実に努める。</p>															

(6) 特別支援教育の充実		(学校教育課)
目的	市内小・中学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の生活や学習上の困難の改善・克服を図る。	
成果	○特別支援教育コーディネーターを中心に、校内教育支援委員会を開催し、組織的な対応を行い、学校全体で特別支援教育の充実に努めることができた。	

<p>成果</p>	<p>○合理的配慮の観点より、障がいのある児童生徒のための「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用を推進することにより、当該児童生徒に長期的、短期的、両方の視野に立った具体的な支援・指導を行うことができた。</p> <p>○学校の実態に応じて介助員を配置し、生活面・安全面のサポートを行うことで障がいのある児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。</p> <p>○各学校が県立太田特別支援学校や中央小通級指導教室と連携を図り、児童生徒への適切な指導や保護者への支援に努めることができた。</p> <table border="1" data-bbox="443 533 1414 1030"> <thead> <tr> <th data-bbox="443 533 850 622">指標の概要</th> <th data-bbox="850 533 1038 622">現状値 (R3年度)</th> <th data-bbox="1038 533 1227 622">目標値 (R4年度)</th> <th data-bbox="1227 533 1414 622">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="443 622 850 790">公立学校における教員の特別支援教育研修受講割合 (小・中・義務教育学校:特別支援教育体制整備状況調査)</td> <td data-bbox="850 622 1038 790">100%</td> <td data-bbox="1038 622 1227 790">100%</td> <td data-bbox="1227 622 1414 790">100%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 790 850 1030">障がいのある児童生徒の在籍する公立学校における個別の支援計画・個別の指導計画の策定割合 (小・中・義務:提出状況)</td> <td data-bbox="850 790 1038 1030">特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%</td> <td data-bbox="1038 790 1227 1030">特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%</td> <td data-bbox="1227 790 1414 1030">特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	公立学校における教員の特別支援教育研修受講割合 (小・中・義務教育学校:特別支援教育体制整備状況調査)	100%	100%	100%	障がいのある児童生徒の在籍する公立学校における個別の支援計画・個別の指導計画の策定割合 (小・中・義務:提出状況)	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)										
公立学校における教員の特別支援教育研修受講割合 (小・中・義務教育学校:特別支援教育体制整備状況調査)	100%	100%	100%										
障がいのある児童生徒の在籍する公立学校における個別の支援計画・個別の指導計画の策定割合 (小・中・義務:提出状況)	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%	特別支援在籍児童生徒 100% 通常学級在籍児童生徒 100%										
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○通常学級で発達障がい疑われる児童生徒が増加しており、それらの特別な支援を必要とする児童生徒やその保護者の思いに寄り添う、適切な支援に努める。また、教職員が発達障がいについての理解を深めるよう、研修を充実させる。</p> <p>○全職員の意識向上を目指した特別支援教育に関わる研修を充実させ、特別支援教育への深い知見と理解を有する教職員を育成する。</p> <p>○保護者の気持ちに寄り添い、児童生徒の就学先決定に係る総合的な判断を適切に行うため、教育支援委員会を充実させる。</p> <p>○関係機関との情報共有により、就学前の幼児に係る障がいの把握に努める。また、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、一人ひとりの実態やニーズに応じた切れ目のない指導や支援を充実させる。</p>												

(7) キャリア教育の充実		(学校教育課)
<p>目的</p>	<p>発達段階に応じたキャリア教育の充実に努め、望ましい勤労観や職業観を育成する。また、自己の個性を理解し、自己肯定感を高め、将来に対する夢や希望がもてるような指導に努める。</p>	
<p>成果</p>	<p>○進路適性検査「進路コンパス」等を活用して、自己の適性や将来を考えることができ、将来に対する夢や希望をもつことができた。</p> <p>○キャリアパスポートを通して、児童生徒が自己評価を行い、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることができた。</p>	

成果	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)
	将来の夢や目標をもっている小中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 83.5%	小6 100%	小6 80.4%
		中3 67.2%	中3 100%	中3 68.2%
点検・評価 今後の課題等	<p>○各教科等における社会や生活とのつながりを明確にした指導を通して、基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)の育成に努める。</p> <p>○地域と連携した体験活動やボランティア活動を推進し、社会貢献をしながら、自己肯定感を高める。</p>			

(8) 外国人児童生徒・外国語教育の充実		(学校教育課)		
目的	外国人児童生徒の日本語能力や学習状況に応じ、日本の学校への適応とより良い進路の実現に向けた基礎学力の定着を図る。また、国際理解教育及びグローバル教育推進のため、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。			
成果	<p>○外国人児童生徒に対し、各学校において国際教室担当教員、バイリンガル教員及び日本語指導員が連携して指導に当たること、個に応じたきめ細かな指導・支援を行うことができた。</p> <p>○初期指導教室(プレクラス)では、令和4年度32名の外国人児童生徒が40日間のプログラムを修了して各学校へ就学した。受入校への訪問や保護者へのガイダンスにより、系統的な学習支援と円滑な就学へ大きな役割を果たした。</p> <p>○ALTの活用により、英語や外国文化に対する興味・関心を高め、英語を楽しく学び積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒が増えてきた。</p> <p>○自分の思いや考えを伝える場面を設定し、コミュニケーション能力を高めるための授業改善に取り組んできた。</p>			
	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)
	中学校を卒業した外国人生徒のうち、就職又は進学した者の割合 (中3外国籍生徒:外国人生徒進路状況調査)	96.0%	100%	86.0%
	中学校3年生までに英語検定3級以上取得者の割合 (中学3年生:英語教育実施状況調査)	30.6%	35%以上	27.3%

点検・評価 今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する言語に対するバイリンガル教員、日本語指導員を確保するとともに、各学校の要望に対応したバイリンガル教員、日本語指導員を配置する。 ○外国人児童生徒の増加に伴うプレクラスの受入体制と対応を充実する。 ○外国人児童生徒の実態を踏まえ、国際教室担当教員やバイリンガル教員、日本語指導員の必要性に応じた研修内容の見直しと充実を図る。 ○ブロック別集中校システムを生かし、ブロック内で情報を共有することで、小・中学校で連携して系統的な指導が行えるようにする。 ○小学校3、4年生の外国語活動及び5、6年生の英語から中学校英語への円滑な接続を行う。 ○ALTや英語室を積極的かつ効果的に活用し、児童生徒のコミュニケーション能力を高める。
-----------------	--

(9) 安全教育の充実		(学校教育課)		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊重を基盤とした安全教育を推進し、児童生徒が当事者意識をもち生活する、安全な学校づくりを図る。 ○学校や地域・関係機関と連携した緊急時対応マニュアルを検証、整備し、安全対策や防犯体制の確立を図る。 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「私の交通安全宣言」を活用し、交通事故の未然防止に向けて「自分の身は自分で守る」当事者意識の高揚を図ることができた。 ○自校の緊急時対応マニュアルに基づいた避難訓練を実施することで、自然災害等に備えた防災教育の一層の充実に努めることができた。 ○安全教育主任会を実施し、各学校の実態に合わせた取組を集約し、よりよい実践例を共有することができた。 ○各学校の通学路安全点検の結果及び地域の声を踏まえて、関係諸機関と連携しながら通学路安全推進会議を機能させ、安全対策を進めることができた。 ○下校時の見守りや防犯研修など、スクールガードリーダーの活用を充実させ、地域ぐるみの安全体制の強化を図ることができた。 			
	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)
	児童生徒を対象とした防犯教育 (不審者対応避難訓練を含む)の 実施率(安全教育に関する調査)	小 100%	小 100%	小 100%
		中 100%	中 100%	中 100%
	交通安全教育の実施率 (安全教育に関する調査)	小 100%	小 100%	小 100%
		中 100%	中 100%	中 100%

点検・評価 今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害発生時や不審者への対応など、防犯・防災教育充実のための指導は、常に現状にあわせた実効性のある改善や見直しに努める。 ○児童生徒の交通事故を防ぎ、安全な登下校を実現するため、太田市通学路安全推進会議に向けた情報収集と円滑な運営に努める。 ○スクールガードリーダーの担い手が不足しており、令和5年については、2名で市内小学校を対応することとなるため、増員のため、適任者の検討が必要となる。
-----------------	---

(10) 情報教育の充実		(学校教育課)													
目的	各教科等において、GIGAスクール構想による1人1台端末を効果的に活用し、児童生徒の発達段階に応じた情報教育に関する内容を計画的・系統的に行うことにより、情報活用能力の育成を図る。また、インターネット等の利用時に守るべきルールやマナーを身に付けさせることにより、情報モラルの育成を図る。														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○業者等と連携して行われた基本操作研修により、各校で日常的に端末を活用できる教職員の裾野が広がられた。その結果、子どもたちが端末を活用する姿が日常的なものとなった。 ○「太田市GIGAスクール構想」を展開したことで、各学校で端末を授業に活用するための取組が活発に進められたと考えられる。 ○コロナ禍によりやむを得ず登校できない子どもに対して、オンラインでつながることによってコミュニケーションや学習の機会を止めない取組が進められた。 ○学校及び家庭での端末利用を推進することで、子どもは端末に慣れ親しみ、経験を積みながら使い方について学び、ネットリテラシーを含む情報活用能力の向上に結びついた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標の概要</th> <th style="width: 12.5%;">現状値 (R3年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標値 (R4年度)</th> <th style="width: 12.5%;">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業中にICTを活用して指導できる教員の割合 (小・中教員:学校における教育の情報化の実態等に関する調査)</td> <td>小 95% 中 95%</td> <td>100%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>インターネットを利用するときの守るべきルールやマナーを身に付けている小・中学生の割合(小・中:児童生徒の生活に関する意識と規範意識に関するアンケート調査) ※R3は小学校値(中学校は調査なし)</td> <td>98%</td> <td>100%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合 (小・中教員:学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	小 95% 中 95%	100%	95%	インターネットを利用するときの守るべきルールやマナーを身に付けている小・中学生の割合(小・中:児童生徒の生活に関する意識と規範意識に関するアンケート調査) ※R3は小学校値(中学校は調査なし)	98%	100%	98%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)												
授業中にICTを活用して指導できる教員の割合 (小・中教員:学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	小 95% 中 95%	100%	95%												
インターネットを利用するときの守るべきルールやマナーを身に付けている小・中学生の割合(小・中:児童生徒の生活に関する意識と規範意識に関するアンケート調査) ※R3は小学校値(中学校は調査なし)	98%	100%	98%												
点検・評価 今後の課題等	○情報教育に関する年間指導計画の作成により、系統的・継続的な指導を充実させ、情報活用能力を育成する。														

点検・評価 今後の課題等	<p>○1人1台端末の活用によって、子どもたちの学力を効果的に向上させる授業の充実を推進し、その実践記録を蓄積・紹介していく。</p> <p>○警察等と連携し、情報モラル教育をより一層充実させ、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成する。</p>
-----------------	---

(11) 環境教育の推進		(学校教育課)
目的	人と環境とのかかわりについて正しい認識に立ち、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。	
成果	<p>○各学校においてISO14001に基づく環境教育を推進し、各教科・領域等で環境に関する学習に取り組むことができた。</p> <p>○「ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業」を活用し、15の中学校で林間(高原)学校における「環境教育」に取り組むことができた。</p> <p>○「『みどりの小道』環境日記2022」を市内小学校4~6年生に配布し、身近な環境に対する意識を高めることができた。</p>	
点検・評価 今後の課題等	<p>○新型コロナウイルス感染症対策等として常時換気を行う場面も多く、エコ活動に含まれる冷暖房の使用に関しては、節電は難しい面もある。</p> <p>○SDGsと関連させ、環境保全、環境美化、省エネルギー活動等を児童生徒が自らの問題として捉え、積極的にゴミの原料とリサイクルを進める循環型社会の実現を目指した行動がとれるよう、各教科・領域における環境教育を充実させる必要がある。</p>	

(12) 食に関する指導の充実		(学校施設管理課)
目的	学校給食を生きた教材として活用し、各教科等と関連づけた食に関する指導を推進し、知識の習得、実践力、食習慣の育成を図ることで、子どもたちの心身の健全な育成に寄与する。	
成果	<p>○食に関する指導の推進 栄養教諭等会議を年間で5回開催し、栄養・衛生指導、助言及び情報提供や意見交換を行い、食育の推進を図った。 また、インターネットによる学校栄養士の共通フォルダを活用し、食育に関する掲示物のデータを栄養士全員が共有するなど、より一層の食育の資質向上に努めた。</p> <p>○食育セミナーの実施 食育に関するセミナーを開催して親子で作る料理のレシピと作り方を太田市公式YouTubeで公開し、動画配信を行った。</p>	
点検・評価 今後の課題等	○食育に関する指導の充実に継続して取り組むとともに、食材の検収並びに衛生管理の徹底、食物アレルギーの理解向上などに努め、学校給食の安全性を更に向上させていきたい。	

点検・評価 今後の課題等	<p>○安全・安心な学校給食の提供を維持するためにも、学校における計画的な食に関する指導がより一層推進されるよう今後も取り組んでいきたい。</p> <p>○給食センターでは、2人の栄養教諭が給食受配校である3小学校52クラス、3中学校26クラスの普通学級全78クラスで給食時間を活用し、学年ごとにテーマを決めて食育に関する指導を行い、また、学校の要望を受けて関連教科などで授業を行い、児童生徒の食に関する課題解決に向けた取組ができた。</p>
-----------------	---

(13) 小中連携・小中一貫教育の推進 (学校教育課)	
目的	小中一貫教育の導入により、小中連携の一層の充実や教育水準の向上を図る。
成果	○義務教育学校「北の杜学園」との会議を2回行い、北の杜学園における小中一貫教育の推進に係る諸問題について共有した。
点検・評価 今後の課題等	○北の杜学園の現状を把握するための会議を引き続き行い、成果については長期的視野に立って捉えていく必要がある。

(14) 中高一貫教育の充実 (市立太田高校)	
目的	中高が連携し、6年間の一貫した特徴あるプログラムを通して、確かな知性、豊かな人間性、たくましい心身を培い、自ら未来を切り拓く生徒を育成する。
成果	○太田中、太田高、教育委員会の3者で中高一貫教育推進本部会議を定期的に行い、課題の解決に努めた。 ・令和4年度開催回数 3回
点検・評価 今後の課題等	○「市立太田」の教育理念や方針が浸透した結果、令和5年度の入学者選抜(中学・高校)において、志願者数が定員を満たすことができた。

(15) 学校規模及び学校配置の適正化の推進 (学校教育課)	
目的	少子高齢により児童生徒数の減少が予想される中、学校の集団規模を維持し、質の高い教育を維持継続する。
成果	○太田市教育委員会からの諮問を受け、太田市学校適正規模及び適正配置審議会で、本市における学校の適正規模と適正配置のガイドラインについて審議した。 ・令和4年度審議会開催回数 6回 ・令和5年4月開催の7回目の審議会にて審議を終了し、5月に答申を受ける予定
点検・評価 今後の課題等	<p>○審議会からの答申を踏まえ、本市における学校の適正規模と適正配置の基準を定めた基本方針を策定する。</p> <p>○適正化の検討を要する学校は、対象となる学校区に地区委員会(仮称)を設置し、保護者や地域住民と学校の現状や課題について認識を共有しながら、学校区の見直しや学校統合等、適正化に向け慎重に検討を進める。</p>

(16) 学校の施設・設備の整備充実		(学校施設管理課)									
目的	市内小・中・義務教育学校全41校で安全で快適に学校生活を送れるよう機能の維持保全及び教育環境の改善のため、修繕工事など整備を行う。また、計画的に給食施設の改築と設備の更新を進め、安全・安心な給食を提供する。										
成果	<p>○校舎のトイレ大規模改修工事について、小学校2校で実施し、快適な教育環境の整備を進めた。</p> <p>○安全・安心な学校給食を提供するため老朽化した給食室を改築した。南中学校の給食室の建設を完了した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模改修事業(トイレ)の実施率</td> <td>2校 実施率 22.0%</td> <td>2校 実施率 26.8%</td> <td>2校 実施率 26.8%</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	大規模改修事業(トイレ)の実施率	2校 実施率 22.0%	2校 実施率 26.8%	2校 実施率 26.8%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
大規模改修事業(トイレ)の実施率	2校 実施率 22.0%	2校 実施率 26.8%	2校 実施率 26.8%								
点検・評価 今後の課題等	<p>○校舎内での工事であることから、児童生徒及び学校関係者の安全確保と、学習環境に影響が少ない施工計画を立てる必要がある。 工事の周知徹底を図り、安全第一で施工を進める。また、長期休暇を含めた工期設定とするとともに、学校関係者には、事前に工事内容の説明をして、理解と協力が得られるよう努める。</p> <p>○太田保健福祉事務所や群馬県教育委員会巡回指導、太田市学校給食室安全衛生委員会の職場点検等により、指摘された改善事項について、衛生的な施設で安全・安心な給食を提供するため、改築・改修に向けて取り組んでいく必要がある。</p> <p>○安全・安心な給食を提供するため、老朽化している施設・設備の改築・更新を計画的に推進することにより、安心して働ける職場環境の充実に努めていきたい。</p>										

(17) 学校給食の充実		(学校施設管理課)	
目的	安全で安心な学校給食を提供するために衛生管理を徹底し、かつ、地場農産物の活用を通して地産地消に寄与する。 また、給食費の債権管理として、毎月の振替不能通知の発送、学期ごとの催告書の発送及び保護者の申し出による児童手当からの徴収や法的措置の実施により、未納額の縮減を図り、給食費負担の公平性を確保する。		
成果	<p>○安全・安心な給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭、学校栄養職員及び調理員を対象に衛生研修会を開催し、食中毒防止や衛生管理の徹底等について、全従事者の意識向上を図った。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために特に注意すべき点として「換気の徹底」「飛沫を防ぐための方法」を呼びかけ、昼食時間や休憩時間の過ごし方などを他校の例を挙げながら紹介し、重点的に指導を行った。 ・行政管理公社で実施した米の放射性物質測定検査結果及び、給食会で実施した小麦の放射性物質測定検査結果を各校へ配布し、周知を図った。 		

<p>成果</p>	<p>○地産地消の推進及び周知啓蒙 学校給食に地場産農畜産物を積極的に取り入れ、給食だよりや献立表に生産者情報などを掲載した。 また、地場産農畜産物を積極的に取り入れた献立による学校給食「おたをたべよう」の日（令和4年12月1日～令和5年1月30日のうち学校が決めた任意の日）を実施し、地産地消の一層の推進を図った。 実施校 市内34校及び新田学校給食センター 地場産農畜産物使用割合の平均 重量割合76.0% 品目割合56.6%</p> <p>○児童手当から給食費充当 ・充当状況（延べ） 147世帯 181人 3,624,955円</p> <p>○債権管理条例に基づく給食費の債権放棄 ・滞納者への弁護士催告を実施し、滞納者の納付意識を促すとともに、徴収困難案件分を債権管理条例に基づき、適切に債権放棄を行い、不能欠損処理を行った。 〔令和4年度債権放棄件数及び金額〕 27件 5,776,626円</p> <table border="1" data-bbox="443 831 1414 1173"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校給食における太田市産食材の使用割合</td> <td>野菜 37.9%</td> <td>野菜 40.0%</td> <td>野菜 41.4%</td> </tr> <tr> <td>米 100%</td> <td>米 100%</td> <td>米 100%</td> </tr> <tr> <td>学校給食費の現年度収納率</td> <td>98.68%</td> <td>99.00%</td> <td>98.74%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	学校給食における太田市産食材の使用割合	野菜 37.9%	野菜 40.0%	野菜 41.4%	米 100%	米 100%	米 100%	学校給食費の現年度収納率	98.68%	99.00%	98.74%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)													
学校給食における太田市産食材の使用割合	野菜 37.9%	野菜 40.0%	野菜 41.4%													
	米 100%	米 100%	米 100%													
学校給食費の現年度収納率	98.68%	99.00%	98.74%													
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○安全・安心な学校給食提供のために、食中毒や食物アレルギー、異物混入等に対して、適切な対応が求められている。特に、食材（給食用）の製造業者においては、令和3年6月より完全施行された「HACCPに沿った衛生管理（厚生労働省発行）」に基づき、より厳しい基準をもって食材の納品を行うこととなった。学校給食は、「学校給食衛生管理基準（文部科学省発行）」を引き続き遵守し、食材料から調理まですべての衛生管理体制の徹底に努めていくことが課題である。</p> <p>○公平な給食費負担の観点から、納付や連絡のない未納者に対しては、催告書の発送、職員による戸別訪問徴収や納付相談の実施とあわせ、収納課への滞納者情報照会により実態把握に努めることと、催告等に対し、納付や連絡のない未納者に対しては、弁護士催告や訴訟手続きを実施し、法的措置を拡充していく必要がある。</p>															

【事務事業評価委員の意見】

- ◇学校経営について、教育委員会のリーダーシップのもと、様々な施策を通して児童生徒の知・徳・体のバランスの取れた指導がなされており高く評価したい。教育課題が山積している中で、今日的課題を明確にし、その解決に向けた方策等積極的な義務教育が展開されることを期待したい。
- ◇教職員の働き方改革、多忙感の解消に向けた取組により、教職員の意識改革が進んでいることは大いに評価したい。会議、研修、出張、報告書の作成、保護者対応等まだまだ改善される余地があるものと思われる。今後、更に教職員が多忙感の解消を実感できるような取組がなされることを期待したい。
- ◇LGBT理解増進法（「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」）の成立を受け、新たな取組が学校教育に求められることとなる。学校現場が混乱することがないよう教育委員会のリーダーシップを期待したい。
- ◇生徒指導の充実について、問題行動やいじめ等早期発見・早期対応に努めるなど成果が上がっており大変評価できる。生徒指導上の課題について、適切な指導や対応ができるよう教育委員会独自の顧問弁護士制度があるので、必要に応じて是非活用をお願いしたい。
- ◇マスク着用について、児童生徒の精神・健康面での影響も懸念されているところであり、文科省通知に従い適切に指導されることを望みたい。
- ◇学校施設・設備の整備充実について、計画的に進められていることは高く評価できる。数多くの施設・設備があり、また施設の老朽化等も進んでいることもあり、各学校の安全点検の徹底を図るなど、事故防止にも努められたい。
- ◇学校給食の充実について、地場産農畜産物を積極的に取り入れるなど特色ある学校給食を実施しており高く評価したい。また安全・安心な学校給食提供のため、食中毒やアレルギー等衛生管理体制の徹底に今後も引き続き努力されたい。
- ◇各学校が校舎内外の環境整備に努めていることは大いに評価したい。特に敷地周りの塀やフェンス等の除草等周辺美化には引き続き努めていただきたい。

3 高校教育の充実

(1) 高校教育の充実		(市立太田高校)																	
目的	「太田市立太田高等学校」として8年目を迎え、地域に根差した魅力ある学校づくりを推進し、高い志をもって自らの未来を切り拓き、地域社会の発展に寄与するとともに、グローバル社会の中で活躍できる人材を育成する。																		
成果	<p>○設立8年目を迎え、普通科・商業科生は、例年同様に顕著な合格実績を挙げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大 34名 (東京大1名、北海道大1名、東北大1名、筑波大1名、東京学芸大1名、埼玉大1名、群馬大5名、新潟大1名等) ・私立大 287名 (慶應義塾大4名、早稲田大6名、上智大5名、中央大5名、明治大8名、青山学院大5名、同志社大3名、立命館大11名等) <p>○太田市立商業高校の伝統を継承する商業科では、多種目、高度資格取得を指導目標に掲げ、専門的な知識、技能の習得を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の全商検定1級三種目以上の取得率72.6%(157名中114名取得) ・情報系国家資格試験合格者 7名 <p>○恒例の「百貨市」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場制限を行ったうえで実施し、企画から始まり広告宣伝・仕入れ・販売・決算に至るまでの生きた商業教育に取り組むことができた。</p> <p>○学校施設の環境整備のため、令和4年度は管理棟空調整備改修工事、トイレ洋式化工事、第二体育館照明改修工事、自動火災報知設備等改修工事を実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標の概要</th> <th style="width: 12.5%;">現状値 (R3年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標値 (R4年度)</th> <th style="width: 12.5%;">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校卒業時の地元企業への就職率(商業科)</td> <td>71.0%</td> <td>72.0%</td> <td>65.7%</td> </tr> <tr> <td>各種検定3種目1級所得率の推進(商業科)</td> <td>73.1%</td> <td>74.0%</td> <td>72.6%</td> </tr> <tr> <td>現役卒業生の進学率(普通科)</td> <td>86.4%</td> <td>87.0%</td> <td>89.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※地元企業への就職率は、高校卒業時の市内就職者数を就職者数で割った百分率(%) ※3種目1級取得率は、3種目以上1級合学者数(商業科3年)を生徒数(商業科3年)で割った百分率(%) ※現役卒業生の進学率は、大学・短期大学等進学者数を高校卒業生数で割った百分率(%)</p>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	高校卒業時の地元企業への就職率(商業科)	71.0%	72.0%	65.7%	各種検定3種目1級所得率の推進(商業科)	73.1%	74.0%	72.6%	現役卒業生の進学率(普通科)	86.4%	87.0%	89.3%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)																
高校卒業時の地元企業への就職率(商業科)	71.0%	72.0%	65.7%																
各種検定3種目1級所得率の推進(商業科)	73.1%	74.0%	72.6%																
現役卒業生の進学率(普通科)	86.4%	87.0%	89.3%																
点検・評価 今後の課題等	<p>○令和5年度の入学者選抜において、志願者数が定員を満たすことができた。</p> <p>○今年度の進路指導を検証し、普通科では、生徒個々の学力差に応じた、将来の夢の実現につながる進路指導の工夫、商業科では、生徒が取得した資格、習得した知識、技能を生かした進路実現、地元企業への就職率の向上等に尽力する。</p>																		

点検・評価 今後の課題等	<p>○教育活動の充実、発展に向け、引き続き太田市教育委員会と連携し、生徒の能力を最大限に活かせる教育施設・設備やGIGAスクール構想に基づいたICTの環境整備、老朽化した施設の長寿命化対策に引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>○地元企業・大学と連携したグローバル人材育成事業を通して、生徒が地球規模の視野で考え、地域視点で行動する人材となり、将来地元企業へ定着し、貢献することを目指していきたい。</p> <p>○引き続き生徒の学習ニーズや学校行事に対応できるような施設を整備し、教育環境の充実に努める。</p> <p>○アフターコロナを見据えて、コロナ禍において実施できなかった事業復活の検討を、生徒の安全性を最優先にしながら行い、充実した教育の実践に取り組んでいきたい。</p>
-----------------	---

(2) グローカル人材育成事業の推進		(市立太田高校)
目的	<p>地元企業・大学と連携したグローバル人材育成事業を通して、生徒が地球規模の視野で考え、地域視点で行動する人材となり、将来地元企業へ定着し、貢献することを目的とする。</p>	
成果	<p>○地元企業・大学・市立太田の産学官が連携し、地元企業の中核を担うグローバルな人材の育成と定着を目指し、「市立太田グローバル人材育成事業」を新型コロナウイルス感染症拡大防止に細心の注意を払い、事業を選別しながら実施した。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携に伴う模擬授業 ・英語プログラム授業 ・英語プログラム研修(ブリティッシュヒルズ、東京グローバルゲートウェイ) 	
点検・評価 今後の課題等	<p>○令和元年度で途切れた地方創生推進交付金については、新たな内容で申請し、令和3年度から令和5年度までの3年間、国庫補助事業として採択された(補助額1/2)。</p> <p>○令和3年度から地元企業に企業版ふるさと納税や寄付金を募って事業費に充当した。将来的には国の補助金に頼らない、自立した事業運営を目指していきたい。</p>	

<p>【事務事業評価委員の意見】</p> <p>◇「市立太田高校」として8年目を迎え、地元企業、大学等との連携を強化する中で、より質の高い教育活動が展開されていることは高く評価したい。今後も引き続き進路指導の工夫や地元企業への就職率の向上等生徒の将来の夢の実現に努めてほしい。</p> <p>◇生徒の進学率の向上や、各種資格取得等大きな成果が上がっていることは大変素晴らしいことである。運動部の部活についても大いに活躍しているところであるが、文化部についても、全国大会で優秀な成績を収めている部もあると聞いている。是非、その活躍なども積極的なPRをお願いしたい。</p>
--

◇グローバル人材育成事業は、まさに市立太田高校にふさわしい事業である。このグローバル人材育成を中心に据えた一連の教育活動が特色ある学校経営となると思われる。一層充実したグローバル人材育成事業となるよう期待したい。

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習推進体制の整備並びに生涯学習推進事業	(生涯学習課)																
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習推進体制の整備並びに生涯学習の推進 時代に対応した社会教育の推進を図るため、生涯学習に関する各組織・団体を中心に地域の特色を生かせるような生涯学習活動の支援を行うとともに各種事業等を通して、生涯学習社会の構築実現に努める。 ○社会教育関係団体等との連携 124団体が登録している社会教育関係団体及び関係機関と連携を密に図り、生涯学習の推進に努める。 ○太田市民文化祭の開催 本市における文化活動の振興を図るため、各種文化団体及び一般市民の参加を求め、日頃の学習成果を発表し、市民同士の文化交流の場である市民文化祭を開催する。 ○市民ニーズに応える生涯学習の推進 生涯学習の楽しさや参加者相互の交流を探るために、多様化する社会生活に合わせ、市民のニーズに応える市民教室、家庭教育学級、おおた金山中学校を開催し、生涯学習機会の充実を図る。 																
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習推進体制の整備並びに生涯学習の推進 公民館登録団体や社会教育関係団体等に対し、活動の場や機会の提供等の支援を行っている。 ○社会教育関係団体等との連携 コロナウィルスの影響により団体活動が縮小されているが、社会教育関係団体連絡協議会においては功労者表彰を実施できた。 ○太田市民文化祭の開催 10月中の土・日曜日にて3年ぶりに、各種文化団体及び市民参加の『太田市民文化祭』を開催、芸能（洋舞・吟剣詩舞等）、展示（華道・書道等）、文化（茶席・囲碁・将棋等）の各部門にて発表・展示等を実施した。 ○市民ニーズに応える生涯学習の推進 市民教室や家庭教育学級、おおた金山中学校等をコロナ対策のための利用規制を設けつつ開催した。各教室・講座は多様化する市民ニーズの情報を的確に捉え、新規事業や人気がある事業等を展開できた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr style="background-color: #e1eef6;"> <th style="width: 50%;">指標の概要</th> <th style="width: 12.5%;">現状値 (R3年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標値 (R4年度)</th> <th style="width: 12.5%;">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太田市民文化祭の参加者及び来場者数</td> <td style="text-align: center;">中止</td> <td style="text-align: center;">4,000人</td> <td style="text-align: center;">3,568人</td> </tr> <tr> <td>市民教室参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率</td> <td style="text-align: center;">95%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">95%</td> </tr> <tr> <td>家庭教育学級参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">90%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	太田市民文化祭の参加者及び来場者数	中止	4,000人	3,568人	市民教室参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率	95%	100%	95%	家庭教育学級参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率	100%	100%	90%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)														
太田市民文化祭の参加者及び来場者数	中止	4,000人	3,568人														
市民教室参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率	95%	100%	95%														
家庭教育学級参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率	100%	100%	90%														

成果	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)
	おおた金山中学校参加者アンケート 「やや満足」以上の回答率	91%	100%	96.4%
点検・評価 今後の課題等	○コロナ感染症のため、多くの事業が中止や規模縮小での開催となる中、参加者の安全・安心を第一に考えた感染症対策等の創意工夫を実践し、コロナとの共生を図りながら業務に取り組めた。			

(2) 人権教育の推進		(生涯学習課)														
目的	<p>○人権教育の推進 人権教育の本質を理解し、認識を深めるため指導者養成の充実を図り、地域や市民の実情に応じた人権教育を推進する。また、地域社会における様々な機会を活用し、指導者研修会・講演会などを通して、人権教育の推進を図る。</p> <p>○人権教育集会所指導事業 人権教育集会所において、市民の教養文化の向上を図り生活環境を改善し、その振興を期するための教育活動を推進することを目的に各種事業を行う。</p> <p>○人権教育PTA委託事業 PTA団体が主体となり、身近な人権問題や教育上の問題・課題等、人権問題に関する理解と認識を深めることを目的に実施する。</p>															
成果	<p>○人権教育の推進 県及び東部教育事務所主催並びに部落解放同盟主催の人権教育講演会等に積極的に参加し、多様化する現在の差別問題について学んだ。</p> <p>○人権教育集会所指導事業 各教育集会所においては、コロナ感染症により各種事業の実施に制約があったが、社会教育指導員及び人権教育推進員による人権講座や、地域交流のための講座・催しを、感染症対策を図りながら開催できた。</p> <p>○人権教育PTA委託事業 関連書籍を読む、標語を考える、人権DVD視聴、手話教室、校長による人権講話等、各小・中・義務教育学校にて様々な人権教育を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="443 1594 1422 1872"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人権教育集会所(9集会所)の総事業回数(講座等)</td> <td>678回</td> <td>1,080回</td> <td>1,014回</td> </tr> <tr> <td>人権教育PTA委託事業の総事業回数(講座等)</td> <td>92回 (42校)</td> <td>84回 (42校)</td> <td>104回 (42校)</td> </tr> </tbody> </table>				指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	人権教育集会所(9集会所)の総事業回数(講座等)	678回	1,080回	1,014回	人権教育PTA委託事業の総事業回数(講座等)	92回 (42校)	84回 (42校)	104回 (42校)
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)													
人権教育集会所(9集会所)の総事業回数(講座等)	678回	1,080回	1,014回													
人権教育PTA委託事業の総事業回数(講座等)	92回 (42校)	84回 (42校)	104回 (42校)													
点検・評価 今後の課題等	○人権問題等の各種講座・講演会に参加し、現在の諸問題について学ぶことができた。教育集会所の総事業回数において目標値を下回ったが、コロナ禍によるものや、利用者の高齢化による活動の縮小等が影響したと思われる。															

(3) 文化振興事業の開催		(生涯学習課)									
目的	<p>○太田市民文化功労賞、奨励賞式典の開催 太田市の芸術・文化の分野において顕著な業績をあげ、本市の文化向上・発展のために貢献した個人に文化功労賞を、またその分野において活躍し将来を期待される個人に文化奨励賞を贈呈し、市民の文化活動の奨励・高揚を図る。</p>										
成果	<p>○太田市民文化功労賞、奨励賞式典の開催 各団体から3人の方が推薦され、うち2人が功労賞を受賞した(奨励賞なし)。令和3年度の受賞式典は、コロナ感染症対策のため招待者なしの簡素なものであったが、令和4年度は来賓・招待人数を絞りつつ、厳粛な式典が実施できた。</p> <table border="1" data-bbox="443 584 1425 768"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太田市民文化功労賞、奨励賞の受賞者数</td> <td>1人</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	太田市民文化功労賞、奨励賞の受賞者数	1人	3人	2人
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
太田市民文化功労賞、奨励賞の受賞者数	1人	3人	2人								
点検・評価 今後の課題等	<p>○令和4年度は目標値を下回ったため、令和5年度は多くの推薦をいただけるよう周知を図っていく。また、式典についてはコンパクトながら厳粛な令和4年度方式を踏襲していきたい。</p>										

(4) 社会教育資料、情報等の利用促進		(生涯学習課)	
目的	<p>○社会教育資料・情報等の学習機能の充実 時代に即した社会教育を推進するために、所有する情報や資料を活用し、市民の多様なニーズに応える生涯学習機能の充実と行政サービスの向上を図る。また、関連団体と連携して地域に密着した学習機能の充実を図る。</p> <p>○視聴覚教育ライブラリーの推進 ビデオやDVD教材、視聴覚機器等の活用・普及を図り、視聴覚教育を推進する。</p> <p>○社会教育団体の育成 関係機関及び関係団体との連携を図り、社会教育関係団体を育成する。</p> <p>○大学公開講座の開設 幅広い生涯学習の推進に寄与するため、関東学園大学と連携して専門性の高い知識の提供に努める。</p> <p>○生涯学習機能の充実 各行政センター、各生涯学習センターと連携し、地域に密着した生涯学習機能の充実を図る。</p> <p>○学習情報提供システムの充実 知識や技術等優れた能力を有した方々を登録し、人材情報として市民に提供することで生涯学習の充実を図る。</p>		

<p>成果</p>	<p>○社会教育資料・情報等の学習機能の充実 視聴覚教育ライブラリー教材を新規に7本購入、人材登録者も随時受付を行うなど最新の資料・情報を取りそろえ、社会教育・生涯学習等の学習機能の充実を図ることができた。</p> <p>○視聴覚教育ライブラリーの推進 集会所の人権学習や、小・中学校の授業、子ども会、高齢者施設、行政センター講座用などでDVD等を活用。人権問題・いじめ問題・悪徳商法などの関連作品を、延べ14,213人が視聴・学習した。</p> <p>○社会教育団体の育成 関係団体等と連携し、活動の推進を図った。また、社会教育関係団体連絡協議会の加入団体又は構成員を対象に、功労を称える表彰を行った。</p> <p>○大学公開講座の開設 関東学園大学教授等を講師として、「世界経済の今後についてー社会に与える影響を経済学の視点でー」をテーマに10月から5週にわたり公開講座を実施、延べ281人が受講した。</p> <p>○生涯学習機能の充実 各行政センター等と情報の共有及び連携を図り、市民教室等を開催した。</p> <p>○学習情報提供システムの充実 令和4年度で人材情報への登録者を12人追加し、合計158人となるころであったが、3年に一度の更新により登録抹消者が多数発生したため実績値が117人となった。また、登録者の情報は市民が閲覧するために、各行政センターへ省略版を送付している。</p> <table border="1" data-bbox="443 1205 1414 1570"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視聴覚教育ライブラリーの教材貸出数</td> <td>152回</td> <td>160回</td> <td>244回</td> </tr> <tr> <td>大学公開講座参加者アンケート「良かった」以上の回答率</td> <td>中止</td> <td>90%</td> <td>94.3%</td> </tr> <tr> <td>太田市人材情報(講師等)登録者数</td> <td>146人</td> <td>150人</td> <td>117人</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	視聴覚教育ライブラリーの教材貸出数	152回	160回	244回	大学公開講座参加者アンケート「良かった」以上の回答率	中止	90%	94.3%	太田市人材情報(講師等)登録者数	146人	150人	117人
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)														
視聴覚教育ライブラリーの教材貸出数	152回	160回	244回														
大学公開講座参加者アンケート「良かった」以上の回答率	中止	90%	94.3%														
太田市人材情報(講師等)登録者数	146人	150人	117人														
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○当項目に設置している指標において目標値を上回ることができた(人材情報登録も実質目標達成)。これにより生涯学習情報の提供及び周知が効率的に図られ、地域の生涯学習活動のサポートを効果的に実施することができたと考える。</p>																

<p>(5) 生涯学習ネットワークの推進 (生涯学習課)</p>	
<p>目的</p>	<p>○生涯学習ネットワーク体制の充実 両毛広域都市圏内における公共施設相互利用の促進や両毛広域生涯学習ネットワーク事業の充実を図り、県域をまたいだ連携による地域づくりを目指す。</p>

成果	○生涯学習ネットワーク体制の充実 人権標語・ポスター展において『両毛6市コーナーパネル展示』を行った。また、令和4年度は両毛ネットワーク事業の『第六次5か年事業実施計画』総括年度であり、報告書の発行業務を執り行った。
点検・評価 今後の課題等	○両毛ネットワーク事業では、令和4年度は事業計画の総括年度であったため、報告書の編集活動などが主体であった。次年度からは新事業である『両毛6市デジタルスタンプラリー』の実施に向けて協議をしていく予定である。

(6) 社会教育総合センターの適切な運営管理と利用促進		(生涯学習課)									
目的	○社会教育総合センターの適切な管理運営の実施 社会教育施設として、幅広い世代を対象に生涯学習の推進を図るため市民の生涯学習活動の場として貸館業務等を行う。										
	○施設環境整備の推進 コロナ禍における感染症対策の徹底、施設利用者が安全・安心に利用できるよう、保守管理及び計画的な補修・修繕を行う。										
成果	○社会教育総合センターの適切な管理運営の実施 コロナの状況も落ち着き、利用制限もなくなったことから、利用者数も前年度と比較し、大幅に増加し、目標値を上回った。										
	○施設環境整備の推進 駐車場の区画線が見えにくくなっていったことから、駐車場の路面標示工事を実施したほか、令和4年9月より空調設備改修工事を現在施工中(令和5年8月まで)。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会教育総合センターの利用者数</td> <td>25,463人</td> <td>30,000人</td> <td>55,385人</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	社会教育総合センターの利用者数	25,463人	30,000人	55,385人		
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
社会教育総合センターの利用者数	25,463人	30,000人	55,385人								
点検・評価 今後の課題等	○コロナ禍による施設利用制限がなくなったことで、利用者は増加し、平常時に戻りつつあるが、施設の老朽化による施設整備は課題となっており、今後も、計画的に修繕等を実施し、施設環境の整備に努めていく。										

(7) 心豊かでたくましい青少年の育成		(生涯学習課)	
目的	○青少年交流事業 北海道稚内市、群馬県吾妻郡高山村へ小・中学生を交流団として派遣し、派遣先の小・中学生との交流活動や様々な体験活動等を通じて、規律・協調・友愛・奉仕の精神を培うとともに、心豊かでたくましい青少年の育成に努める。		
	○太田市サイエンスアカデミー 市内小学5、6年生を対象にサイエンス(科学)に触れるきっかけを提供し、興味や関心を高めるとともに太田の主産業であるものづくりに対する理解を深める。		

<p>成果</p>	<p>○青少年交流事業 新型コロナウイルスの影響によりすべて中止。代替事業として、太田リーダークラブが、弘前市のリーダークラブとオンライン交流を実施。また、金山の森キャンプ場でデイキャンプを実施し、参加者同士の交流を深めた。 そして、北海道稚内市との派遣事業については、コロナ感染症等の不測の事態が発生しても、対応可能である茨城県北茨城市に交流先の見直しの検討を行った。</p> <p>○太田市サイエンスアカデミー 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、受講者を30名から60名に増員し、講座数も7回から9回へ増やして開催。科学への興味・関心を高めることができた。</p> <table border="1" data-bbox="443 647 1414 958"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青少年交流事業:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率</td> <td>未実施</td> <td>100%</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>サイエンスアカデミー:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	青少年交流事業:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率	未実施	100%	未実施	サイエンスアカデミー:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率	100%	100%	96%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)										
青少年交流事業:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率	未実施	100%	未実施										
サイエンスアカデミー:事後アンケートで参加して「良かった」以上の回答率	100%	100%	96%										
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○青少年交流事業は関心が高く、子どもたちの育成に有意義であるため、コロナ感染症等の不測の事態に対応可能な、茨城県北茨城市に交流先の変更見直しの検討を行い、令和5年度より変更する運びとなった。サイエンスアカデミーは安全管理を徹底するとともに、魅力ある講座内容を検討していく。</p>												

<p>(8) 青少年の社会参加活動及び青少年団体活動の促進 (生涯学習課)</p>	
<p>目的</p>	<p>青少年に社会参加を通じて社会の一員としての規範意識や他人を思いやる心を身に付けてもらうとともに、高校生のボランティアリーダーの養成及び青少年団体の育成を図る。</p>
<p>成果</p>	<p>○中学生ボランティア体験活動事業 3回実施。コロナ禍の中、在宅でもできるボランティアも実施することで計409名参加。ボランティアとして参加する場を提供し、その体験から地域社会に対する奉仕の大切さを学び、地域に貢献できる青少年の育成を図ることができた。</p> <p>○青少年団体等に対する活動支援 太田市子ども会育成団体連絡協議会、太田リーダークラブ、太田市青少年郷土芸能集団「風雷坊」等に事務局として事業に協力、必要な助言を行うなどして活動を支援。それぞれの団体の活動を通して指導者の養成及び直接的に子どもたちの育成を図った。</p> <p>○太田市成人式～二十歳を祝う会～ 太田市民会館において2部構成で開催。式典、市内企業協賛による抽選会を行った。 また、YouTubeを使って、式典のライブ配信を行った。 ※該当者数:2,622人 出席者数:1,833人 出席率:69.9%(前年度72.2%)</p>

成果	<p>○太田松茸道中 新型コロナウイルスの影響により中止。</p> <table border="1" data-bbox="443 271 1414 616"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生ボランティア参加者数 (実施回数)</td> <td>516人 (3回)</td> <td>170人 (3回)</td> <td>409人 (3回)</td> </tr> <tr> <td>太田松茸道中参加者数</td> <td>未実施</td> <td>100人</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>太田市成人式～二十歳を祝う会～ 出席率</td> <td>72.2%</td> <td>76.0%</td> <td>69.9%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	中学生ボランティア参加者数 (実施回数)	516人 (3回)	170人 (3回)	409人 (3回)	太田松茸道中参加者数	未実施	100人	未実施	太田市成人式～二十歳を祝う会～ 出席率	72.2%	76.0%	69.9%
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)														
中学生ボランティア参加者数 (実施回数)	516人 (3回)	170人 (3回)	409人 (3回)														
太田松茸道中参加者数	未実施	100人	未実施														
太田市成人式～二十歳を祝う会～ 出席率	72.2%	76.0%	69.9%														
点検・評価 今後の課題等	<p>○中学生ボランティア体験事業は関心が高く、参加希望者が非常に多い。それぞれの事業において参加者の意見やアンケート、社会状況を踏まえ、その内容を検討していく。太田リーダークラブ、風雷坊においては様々な行事への参加を通して広く周知することで会員数の確保に努め、団体を活性化していく。</p>																

(9) 地域ぐるみ健全育成運動の推進 (生涯学習課)									
目的	<p>「地域の子どもは、地域で守り育てる」の観点に立ち、各地区の健全育成団体等の活動の支援や補助を行い、学校・家庭・地域社会の協力のもと、市民一体となった地域ぐるみの青少年健全育成運動を推進する。</p>								
成果	<p>○青健推モデル支部指定事業の推進 地区ごとに1行政区のモデル支部を指定し、9行政区が実施した。モデル支部指定することによってその行政区における活動が深まるとともに、活動発表会を通して活動内容が他の行政区の参考となった。また、青少年の健全育成に対して関心を深めてもらうきっかけにもなった。</p> <p>○太田市青少年健全育成大会 新型コロナウイルスの影響により中止。青少年の模範となる児童生徒に対して顕彰を授与するとともに、青少年の健全育成に寄与した団体・個人功労者を表彰した。</p> <table border="1" data-bbox="443 1518 1414 1704"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太田市青少年健全育成大会参加者数</td> <td>未実施</td> <td>350人</td> <td>未実施</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	太田市青少年健全育成大会参加者数	未実施	350人	未実施
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)						
太田市青少年健全育成大会参加者数	未実施	350人	未実施						
点検・評価 今後の課題等	<p>○青少年健全育成団体の活動が真に青少年の健やかな成長と非行防止に資するよう、今後も運営についての補助や支援を行い、充実した活動となるようしていきたい。</p> <p>○青少年健全育成大会においては、コロナ禍のため未実施が続いていたが、再開に向けて多くの市民や学校関係者に広報PR活動や各団体への呼びかけを継続して行っていきたい。</p>								

(10) 非行防止対策の充実と健全育成		(生涯学習課)									
目的	複雑・多様化する青少年問題に対応するため、相談活動の充実、並びに街頭補導活動や環境浄化活動の一層の充実を図るとともに、関係機関相互の連携を密にして非行を防止する。										
成果	<p>○街頭補導による環境浄化活動の実施 通常の補導活動については、太田駅周辺や大型商業施設において、午前、午後、夜間に分けて151回実施、延べ1034名が従事した。教員による補導については、複数の学校区の通学路において下校時のパトロールを兼ねて実施し、児童生徒の安全確保も行った。なお、現場注意については1件あり、内訳は煙草を吸おうとしていた青少年に対するものであった。主な活動として声かけ運動を実施した。 特別補導として列車内補導、えびす講補導を実施し、青少年の非行防止に寄与した。</p> <p>○電話、メール、面接による相談事業の充実 電話相談「ヤングテレホン」については、午前9時から午後4時30分まで対応し、教育研究所付相談員と連携して相談業務を行った。相談内容が複雑・多様化する中で、相談者に寄り添ったきめ細やかな対応を心掛けて相談を受けている。相談件数については電話133件、面接3件、メール24件で合計160件であった。</p> <table border="1" data-bbox="443 954 1414 1140"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>街頭補導延べ参加人数(回数)</td> <td>884人 (120回)</td> <td>1,120人 (145回)</td> <td>1,034人 (151回)</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	街頭補導延べ参加人数(回数)	884人 (120回)	1,120人 (145回)	1,034人 (151回)
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
街頭補導延べ参加人数(回数)	884人 (120回)	1,120人 (145回)	1,034人 (151回)								
点検・評価 今後の課題等	<p>○補導業務については、補導員による地道な活動が非行防止の一助になっていると考える。下校時における児童生徒への不審者による声かけ事案が多発していることから、防犯活動も兼ねて実施する。また、時代のニーズに対応した活動を検討していく。</p> <p>○相談業務については、相談者に共感し、根気強く対応することで自立を促し、主体的に物事を考えるようアドバイスを送っている。相談の内容から重大な事案とみられる場合には即座に学校や児童相談所に連絡を入れ、早期解決に向け連携を図る。</p>										

(11) 青少年教育施設の適切な運営管理と利用促進		(生涯学習課)	
目的	青少年教育施設を安全・安心に利用できるよう管理・運営し、青少年の健全育成等に資する。		
成果	<p>○金山の森キャンプ場 利用者数は1,733名で前年度比609名増であった。施設内での利用者の事故や救急対応はなく、安全面でも問題なく運営できた。</p>		

<p>成果</p>	<p>○宝南センター 利用者数は3,385名で前年度比898名増であった。近隣住民を中心に利用され、地域の文化的・体育的な交流及び心身の健康増進と福祉に資することができた。</p> <table border="1" data-bbox="443 331 1412 566"> <thead> <tr> <th data-bbox="443 331 906 427">指標の概要</th> <th data-bbox="906 331 1075 427">現状値 (R3年度)</th> <th data-bbox="1075 331 1244 427">目標値 (R4年度)</th> <th data-bbox="1244 331 1412 427">実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="443 427 906 495">金山の森キャンプ場利用者数</td> <td data-bbox="906 427 1075 495">1,124人</td> <td data-bbox="1075 427 1244 495">4,300人</td> <td data-bbox="1244 427 1412 495">1,733人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 495 906 566">宝南センター利用者数</td> <td data-bbox="906 495 1075 566">2,487人</td> <td data-bbox="1075 495 1244 566">3,000人</td> <td data-bbox="1244 495 1412 566">3,385人</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	金山の森キャンプ場利用者数	1,124人	4,300人	1,733人	宝南センター利用者数	2,487人	3,000人	3,385人
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)										
金山の森キャンプ場利用者数	1,124人	4,300人	1,733人										
宝南センター利用者数	2,487人	3,000人	3,385人										
<p>点検・評価 今後の課題等</p>	<p>○金山の森キャンプ場利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止による利用制限は行わなかったことから、前年度に比べ増加した。今後も感染対策は継続しつつ、安全対策をとったうえで運営していく。 また、施設の老朽化が進んでいるため、利用者が安全に利用できるよう修繕を行っていく。</p> <p>○宝南センターも利用者が増加し、目標値を超える利用者数となった。今後も施設の維持管理については定期的な点検業務だけでなく、管理人による日常的な安全点検と管理を徹底することで利用者が安全・安心に利用できるように努めていく。</p>												

【事務事業評価委員の意見】

◇時代に対応した社会教育の推進を図るために、従前あった青少年課の事業を含めて、生涯学習社会の構築実現に努めたことは大変すばらしいことである。
生涯学習社会の到来と叫ばれて久しいが、これからの時代にふさわしい事業となるよう、積極的な事業展開を期待したい。

◇コロナ禍の状況にあって行事の縮小や、やむなく中止された事業も多いと聞いている。組織の再編に伴って、多岐にわたって事業展開されているが、この機会に予算の効果的な活用、また施設の有効活用の面から事業の廃止、統合を含めて再編してはどうだろうか。多くの社会教育団体もあることであり、一気にというわけにもいかないと思うが、検討の余地はあるものと思われる。

◇生涯学習体制の推進に当たっては、地域や関係団体、ボランティア等の参加協力が不可欠なものと思われる。生涯学習情報の提供、周知を効果的に図る中で、より充実した活動になるよう期待したい。

5 文化財の保護活用

(1) 文化財の保護・活用		(文化財課)									
目的	国・県・市指定文化財を恒久的に保存し未来へ継承するため、適切に管理するとともに、これらの活用を図る。										
成果	<p>○文化財探検スタンプラリーについては、新型コロナウイルス感染症対策により規模を縮小した形で3年ぶりに実施した。参加者数は前回実施したの令和元年度の3,648人を1,938人上回る5,586人であった。</p> <p>○経年劣化した文化財の説明板については10箇所改修した。</p> <p>○保有資料の映像については新たに「東山道駅路」「金山城跡」の紹介動画2件を市のホームページで公開した。</p> <table border="1" data-bbox="443 730 1414 896"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保有資料の映像による公開の件数</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>5件</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	保有資料の映像による公開の件数	3件	4件	5件
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
保有資料の映像による公開の件数	3件	4件	5件								
点検・評価 今後の課題等	<p>○スタンプラリーについては規模縮小でスタンプの設置個所を26から16に減らしたことで、まだ遠方への外出をひかえる方が多かったことが参加者の大幅増の原因と考えられる。</p> <p>○今後、スタンプラリーや文化財防火デーの模擬火災訓練などのイベントについては、コロナウイルス感染症予防のため中止していた以前の規模に戻して実施することを検討したい。</p>										

(2) 埋蔵文化財の保護と活用		(文化財課)	
目的	開発と埋蔵文化財保護との調整を行い、埋蔵文化財の調査成果を市民に還元する。		
成果	<p>○埋蔵文化財に関する事前照会は2,672件、また文化財保護法に基づく土木工事に係る届出の受理は820件であった。事前照会の件数については、ここ数年、毎年2,000件以上にも及んでおり、開発事業者等の埋蔵文化財に対する意識が高まっていることが伺われた。</p> <p>○開発に伴う埋蔵文化財の確認調査は68件、調査面積は5,313㎡、確認調査の結果、本調査に至ったものは7件、調査面積は1,853㎡となった。</p> <p>○文化財の教育普及を目的とした「出前考古学講座」については、ぐんま国際アカデミー中高等部の中学1年生(93名)を対象に、令和4年6月15～20日の期間で展示及び講座を実施、宝泉行政センターのいずみレディースアカデミー受講生(24名)を対象に、令和4年7月19日に講座を実施した。</p> <p>○埋蔵文化財の活用事業として埋蔵文化財最新情報展「太田・桐生インターから見た過去の景色」を金山城跡ガイダンス施設で1月14日から3月19日まで開催、4,477人が来場した。</p>		

成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋蔵文化財最新情報展の入場者数</td> <td>4,573人</td> <td>3,500人</td> <td>4,477人</td> </tr> </tbody> </table>	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	埋蔵文化財最新情報展の入場者数	4,573人	3,500人	4,477人
	指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)					
埋蔵文化財最新情報展の入場者数	4,573人	3,500人	4,477人						
点検・評価 今後の課題等	<p>○埋蔵文化財の事前照会件数がここ数年増加傾向にあり、開発等事業者の埋蔵文化財の取り扱いに関する意識が深まっているといえる。その一方で、開発に伴う確認調査の件数もここ数年増加傾向にあり、調査担当職員の負担も増している。</p> <p>○調査担当職員の技術の向上に努めるとともに、調査方法の見直しを検討して、負担の軽減を図りたい。</p>								

(3) 史跡等の保存活用		(文化財課)									
目的	国民共有の財産である市内の国指定史跡の保存管理と活用を図る。										
成果	<p>○令和4年度の国指定史跡関連の企画展の入場者数は、同年度目標値を429人上回った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標の概要</th> <th>現状値 (R3年度)</th> <th>目標値 (R4年度)</th> <th>実績値 (R4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国史跡等をテーマとした企画展の入場者数</td> <td>11,098人</td> <td>12,000人</td> <td>12,429人</td> </tr> </tbody> </table>			指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)	国史跡等をテーマとした企画展の入場者数	11,098人	12,000人	12,429人
指標の概要	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)								
国史跡等をテーマとした企画展の入場者数	11,098人	12,000人	12,429人								
点検・評価 今後の課題等	<p>○令和4年度史跡金山城跡ガイダンス施設自体の来館者数も増加傾向にあり、施設の注目度は高いものと考えられる。今後は企画展関連イベントの実施や、積極的な広報活動により、国史跡関連企画展のさらなる入場者数増を目指したい。</p>										

(4) 資料館及び記念館等の充実		(文化財課)	
目的	<p>資料館及び記念館等の連携により、各館の特性のある展示テーマや行事を充実させ、入館者の増加を図る。</p> <p>施設の老朽化に伴う改修等を行い、来館者への安全配慮と利便性の向上、及び施設の長寿命化を図る。</p>		
成果	<p>○新田荘歴史資料館では、燻蒸業務委託を実施し、展示収蔵資料等の長寿命化を図った。</p> <p>○新田荘歴史資料館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた正月の無料開館を実施した。</p> <p>○縁切寺満徳寺資料館では、老朽化により木戸門が倒壊したため修復を行った。</p>		

成果

- 藪塚本町歴史民俗資料館については、閉館に伴い、建物の解体工事を実施した。(令和5年4月28日完了)
- 高山彦九郎記念館では、2階展示室を有効活用して、藪塚本町歴史民俗資料館で展示等していた考古資料を展示中である。
- 金山城跡ガイダンス施設では、県立太田高等学校の文芸部員・顧問教諭と協働して、田山花袋関連の企画展やギャラリートークを開催した。
- 金山城跡ガイダンス施設では、常設展示室(ガイダンスルーム)照明のLED化を行い、照明器具の長寿命化を図った。
- 中島知久平邸地域交流センターでは、収蔵資料展「尾島祇園の屋台彫刻展」を開催し、地元の文化財資料を公開した。建造物全体の整備に向けては、耐震診断及び保存活用計画の策定を行った。

○各施設入館者状況

施設名	現状値 (R3年度)	目標値 (R4年度)	実績値 (R4年度)
史跡金山城跡ガイダンス施設・ 太田市金山地域交流センター	27,924人	26,000人	31,423人
太田市中島知久平邸地域交 流センター	3,622人	5,000人	9,481人
新田荘歴史資料館	5,004人	5,300人	13,040人
縁切寺満徳寺資料館	6,417人	6,500人	11,926人
高山彦九郎記念館	866人	1,000人	4,553人
大隅俊平美術館	1,211人	1,300人	5,180人
資料館及び記念館等の総入 館者数	45,044人	45,100人	75,603人

○事業等実施状況

施設名	企画展・関連行事・期間	参加者
新田荘歴史資料館	企画展「新田猫－新田岩松家の絵画－」(7月17日～10月10日)	5,650人
	講演会 演題:「新田猫のふるさと－猫 絵と養蚕の関わり－」 講師:板橋 春夫氏(元日本工業大学 教授)(9月11日)	51人
	企画展「令和4年度『長楽寺展』～頂 相・肖像～」(10月16日～12月11 日)	1,242人

成果

施設名	企画展・関連行事・期間	参加者
新田荘歴史資料館	講演会 演題:「建武政権下の足利尊氏と新田義貞」講師:田中 大喜氏(国立歴史民俗博物館准教授)(11月27日)	43人
	講演会 演題:「新田義貞の実力と声望」講師:山本 隆志氏(筑波大学名誉教授)(12月11日)	52人
	見学会 テーマ:「ガイドと歩く紅葉の歴史公園」講師:新田荘史跡ガイドの会 見学地:新田荘歴史資料館・長楽寺東照宮(11月16日・17日)	40人
	ゴールデンウィーク企画「ストラップ作り」(5月3日・4日・5日)	25人
	夏休み企画「ストラップ作り」(夏休み期間中の土・日曜日・祝日)	655人
	正月無料開館(1月2日・3日)	2,228人
縁切寺満徳寺資料館	特別展「目安往来物の時代」(11月12日~1月15日)	1,434人
大隅俊平美術館	収蔵展示「春の刀剣展示」(4月1日~5月22日)	373人
	収蔵展示「夏の刀剣展示」(5月28日~9月25日)	4,030人
	企画展「大隅刀匠と上古刀」(10月1日~1月22日)	472人
	収蔵展示「春の刀剣展示」(1月28日~5月21日)	305人 3/31迄
	その他の関連事業	732人
史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センター	企画展「金山城の池を探る。」(5月7日~6月26日)	2,901人
	企画展「天神山古墳を探る。」(7月21日~9月11日)	7,874人
	企画展「今から110年前の大正元年9月4日「誇る文豪」田山花袋が太田の町を歩く—小説『百日紅』を読む」(10月1日~12月18日)	5,827人
	企画展「第1回 金山城跡竹あかり展」(8月12日~8月16日)	917人
	企画展「第2回 金山城跡竹あかり展」(12月17日~12月25日)	414人

成果	施設名	企画展・関連行事・期間	参加者
	史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センター	埋蔵文化財最新情報展 (1月14日～3月19日)	4,477人
		講演会「太田天神山古墳の三次元測量・地中レーダー探査とその成果」 講師:城倉正祥氏(早稲田大学文学学術院教授)(7月31日)	48人
		講演会「田山花袋展ギャラリートーク」 講師:県立太田高等学校文芸部員、関塚誠氏(同部顧問教諭)(12月4日)	35人
		その他の開催イベント(日本茶、草木染め、竹灯り作り、古代鏡鑄造)	158人
太田市中島知久平邸地域交流センター	「尾島祇園の屋台彫刻展」 (4月1日～5月29日)	1,635人	
点検・評価 今後の課題等	<p>○令和4年度は、文化財探検スタンプラリー等イベントを積極的に実施したため、すべての施設入館者数が令和3年度に比べ増加した。 ※施設合計:令和2年度:37,838人、令和3年度45,039人、令和4年度75,603人</p> <p>○入館者及び施設の利用機会の増加を図るため、太田の魅力ある歴史施設や施設開催イベントを積極的に情報発信してゆく必要がある。</p> <p>○人材の確保と育成により、調査・研究、資料管理などの資料館事業が継続できる体制の確立が必要である。</p>		

【事務事業評価委員の意見】

◇文化財、埋蔵文化財の保護活用、史跡等の保存活用等意図的計画的に実施されていることは高く評価したい。限られた予算、人的制約のある中ではあるが、発掘等においては民間業者の導入も積極的に取り入れるなど効果的な事業が展開されている。太田市は文化財の宝庫とも言われ数多くの文化財が保存されている。今後も引き続き効果的な保護活用が展開されることを期待したい。

◇資料館、記念館等の充実について、各館の特色あるテーマや行事を積極的に行っていることは高く評価できる。入場者数を意識した取組により、より工夫された事業となっている。太田市民のみならず市外県外へのPRも積極的に実施されたい。

◇文化財の保護と開放について、歴史的、学術的に価値のあるものが多く、関連事業も工夫されたイベントが多く高く評価したい。しかし一方では歴史愛好家、専門家が対象というイメージがあり、集客という観点から観光的な側面を加味した企画も必要ではないだろうか。文化財も観光資源の重要な要素であり、より積極的な事業展開を期待したい。